

「暴れ川」という側面

川内川は、大きな恵みや癒やしを与えてくれる一方で、かつては「暴れ川」とも呼ばれ、度々氾濫しては、大きな被害をもたらしてきました。

川内川の過去の洪水において、一番古い記録は746年10月の洪水で、「続日本書記」と「大日本史」にも記載されているそうです。近年では、平成18年のナフミ災害で、本市は甚大な被害を被りました。昨年おとしと共に7月に発生した豪雨も私たちの記憶に新しいところです。

また、以前(令和3年度3月10日号)の広報薩摩川内で紹介した山本實彦は、水害に苦しむ郷里を思い、川内川改修に尽力した一人でした。

このように本市における川内川の河川改修は、古くから市民の命題でもありました。



大小路地区の河川敷

川内川の大小路地区(天大橋から太平洋橋下流の間)の右岸側(河川敷)は、洪水時の河川水位よりも低い位置に住宅が密集しています。

そのため、川が氾濫した場合に、被害が大変大きなものになることが以前から懸念されてきました。その対策として、川幅を広げ、洪水時に流せる水量を増やす必要があったことから、国土交通省は、平成23年度から大小路地区の河川改修工事(引堤工事)を行ってきただけです。

「せんで川夢見る会」 「川内川大小路みらい公園協議会」の発足

大小路地区の河川敷は、かつては屋形船やサーカスでにぎわっていたそうです。今回のこの大規模な河川改修工事により、大きく広がる河川敷を有効活用してにぎわいを取り戻すことができないうかが期待が高まりました。そこで、水辺と街が融合

した空間形成を目指すべく、地域の方々を中心とした「せんで川夢見る会」が平成26年度に発足しました。

「せんで川夢見る会」では、地域の皆さんと市、国(河川管理者)が一緒になって、整備内容や利活用について話し合ってきました。

整備方針が決定後、令和元年度に利活用と維持管理を担う地域の皆さんが「川内川大小路みらい公園協議会」を設立し、管理運営や水辺空間の創出について話し合っています。



川内川水系かわまちづくり計画による環境整備

いくら話し合いをしても、それが実行に移されなければ、何の意味もありません。

具体的環境整備は、「川内川水系かわまちづくり計画」により進められました。

計画では、市がトイレやあずまや、手足洗い場、街灯を、国が階段護岸や河川敷の芝生、通路などの整備を進めました。



新たな憩いの空間 「大小路都市緑地」が誕生

そして、今年4月、ついにここ大小路地区の河川敷に、市の公園として新たな空間「大小路都市緑地」が誕生しました。

トイレ・あずまや・ベンチはもちろん、水辺まで下りることができる階段や肥薩おれんじ鉄道がすぐ真下で見ることができるようになっています。

広大なイベントスペースに加え、子どもたちがサッカーを楽しめるスペースまで備えています。そこには、あの山本實彦も、川内川を見守るようにひっそりと佇んでいるのです。



利活用の仕方は無限大 みんなで盛り上げよう かわまちづくり



今後は、従来から河川敷で開催されている鯉のぼりフェスティバルに加え、マルシェや屋台村、各種イベントなどの開催も予定されています。

また、今年度は、「川内川河川空間利活用促進事業実行委員会」によるイベントも実施予定となっています。いったいこれからどんなイベントが開催されるのでしょうか。今からワクワクします。

この河川空間の利活用方法は無限大。皆さんのアイデアと積極的な利活用で、この憩いの空間と川内川を人のにぎわいで盛り上げていきましょう！



皆さんが知りたいことや紹介したいことなどがありましたら、情報をお寄せください。

問合せ／本庁秘書広報課
企画総務・広聴広報G(内線4122)